

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102568		
法人名	医療法人田北クリニック		
事業所名	グループホームあみ		
所在地	奈良市二条町二丁目3-18		
自己評価作成日	令和6年3月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JisyosyoCd=2970102568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和6年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近鉄西大寺駅より徒歩8分、平城宮跡に隣接という立地条件に恵まれ、毎朝の散歩コースとなっています。環境に配慮して太陽光発電や太陽光温水器、雨水利用など設置し、合成品の含まない洗剤を使用しています。無添加の国産大豆の味噌汁に重ね煮野菜を入れるという体に優しいものや、植物系ミネラルを含むドリンクを提供しています。純粋ピュアなアロマをディフューズしたり、利用者様にアロマタッチをしたりしています。セラピー犬のトイプードルもいます。光触媒除菌消臭装置やイオン発生器を使用しています。施設名になっている「あみ」というのは、「私」でも「あなた」でもあり、「みんな繋がっている」という意味で、みんなが楽しく愛溢れたホームを目指し、終末期でも共に寄り添い、自分らしく幸せに暮らせるようサポートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、太陽光を活かした設備や雨水を利用し、オーガニックの食材を使い、身体に触れるものに植物由来洗剤の使用するなど、地球環境にも配慮した取り組みを行っている。利用者個々の生き方を尊重し、意思や意向を伝えにくくなる方の声を積極的に聴いている。また、月2回研修を実施し、職員の意識や技術の向上に取り組んでいる。「看取りは家族と共に」との考えのもと、居室に家族用ベッドを入れ、一緒に最期を過ごす取り組みを実践し、利用者に安心感を与えている。利用者、家族、職員、その他全ての関係者が、「みんな、幸せ」の理念の下、少しでもより良く過ごしてもらうよう支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホーム独自の理念(笑顔・笑声・笑心)を玄関前、各フロアに掲示し、「あみしあわせ＝すべての人々の幸せ」を全職員が共有している。また、クレド(信条)やフロア目標を、朝夕の申し送り時・会議時唱和し、常に振り返りケアにあたっている。	事業所理念(笑顔・笑声・笑心)を、玄関と各フロアに掲示し、職員は事業所の心得を携帯している。毎年度フロア毎に目標を作り、職員に申し送り時や会議で周知を図っている。より良いサービス提供と、みんなの豊かな暮らしを願ってサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、ほとんど毎日利用者様と散歩に出かけている。ご利用者との散歩時や、職員の出勤・退勤時の挨拶を通じて近隣の方とふれあいを持っている。各フロアに置いてある広報を読み、散歩時に掲示板を見ることで、地域とのつながりを持っている。	自治会に加入し、年2回の町内掃除に参加している。毎日の散歩時の挨拶や、平城宮佐伯門の清掃、ラジオ体操などに参加している。近所から野菜や果物をもらったりすることがある。体操、習字、歌、売店のボランティアも再開し、看護学生の実習受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での清掃活動に積極的に参加している。認知症共用型デイサービスも併設しており、認知症の方に関わる相談にも応じている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則として、奇数月の第二月曜日または土曜日に、家族・自治会長・地域包括支援センターの職員が参加して開催している。家族会ともなっており、ご家族の意向や地域の方や包括支援センターの意見を取り入れ、より良いケアの実践に活かしている。	運営推進会議は、自治会長、地域包括支援センター職員、家族(6～10名位)が参加して、年6回開催している。日常の様子を写真スライドで見ながら活動報告をしたり事故報告し、質疑応答も行われている。家族からの要望も多い。	運営推進会議への家族の参加をより多くするために、オンラインも併用することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉課や地域包括支援センターに、事故報告や、困難事例の相談に乗っていただいたり、運営推進会議へ出席していただき、議事録の提出をするのと同時に、わからないことはその都度聞いてアドバイスを受けている。	市担当課には介護保険手続きや事故報告、困難事例の相談に出向き、アドバイスを受けている。市や地域包括支援センター主催の研修にも参加している。生活保護受給者の受け入れを検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修で学び伝達講習会をおこなったり、社員研修・各フロア会議で話し合い、拘束の弊害について共通認識を深め、身体拘束防止に取り組み、細心の注意を払いケアしている。やむなく行う時は、ご家族の同意を得、ご様子を把握し記録して月一回は、代替案はないか見直している。今現在は事例がない。	この10年、身体拘束の事例はない。毎月、外部講師による研修や職員による研修を行い、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。ヒアリングや事故に基準を設け、原因と対策を利用者、職員、環境の要因別に検討し、職員の能力向上と環境整備を行っている。フロアは利用者の状況で施錠しているが、話しかけたり、一緒に行動したりと気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きていないか常にご利用者の心身の状態の把握を行い、スタッフの言動や行動にも注意を払っている。社員研修を開催し、フロア会議でも話し合っている。また、虐待には至らない、不適切ケアについても、研鑽している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に参加している。ご利用者に成年後見制度を利用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を2時間ほどかけて説明し、納得していただいた上で押印していただいている。退去時は、家族と話し合いを重ねて納得していただき次の住居へ移っていただいている。その際は情報提供をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は面会制限ないが、コロナ禍でご家族の面会を制限していたため、ご家族の訪問の機会が減っていた。運営推進会議時やline等で意見や要望を伺い、記録を残し、謙虚に受け止め対応している。電話やlineなどにご利用者の状況を伝える工夫をしている。ご意見と対応は、職員も会議で共有し改善している。	コロナ禍以後、面会の要望が多かった。家族の意見は、面会時や運営推進会議時、電話やラインなどで聴取している。意見は個人的なものが多く、看取りの事を聞かれる方もある。以前は家族も交え誕生会、花見などのイベントを行っていたので、また状況を見て再開を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議や月2回フロア会議を行い、代表や管理者も参加し、スタッフとの意見交換を行っている。また、年2回個人面談をし、意見を聞いている。Lineワークスにより職員同士の交流、情報の共有をしている。	日常業務でのコミュニケーションを大切にすると共に、代表や管理者との会議、職員会議などで情報交換している。また、年2回の職員の個別面談を実施している。勤務時間や子供連れの勤務、介護休業、資格取得への援助など、個々の職員の意向や事情にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月一回のコアミーティングを行い、フロアの状況把握と意思疎通に努めている。面談をし職員に思いを聞き、より良い職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、パートに関わらず、法人外の各種研修に参加してもらったり、法人内での勉強会を開くなどスキルアップに努めている。参考書や模擬テストを購入して配布するなど、資格取得を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じてネットワークを作り、当法人の研修にも参加してもらっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員を交えてご本人と面談し、ご本人の話を傾聴し、思いを受け止めるようにしている。また、ご家族から情報をいただくことも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の願いや大切にされていること、困っていらっしゃることを面談にてじっくりと話をお聞きし、思いを受け止め、一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際には、ゆっくりと話をお聞きし、ご本人及びご家族のより良い支援について、出来る限りの援助や支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の食器洗いや、リビングの床掃除等スタッフと共にしていただき感謝を伝えている。生活の中で持てる力を発揮していただけるようにしている。ご利用者も職員も共に生活をする、大家族としての暮らしを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からのご希望を聞いたり、ホームでの生活の様子を手紙やlineで送ったり、安心していただくとともに、ご家族の関りも頂戴し、共にケアをしてる。ご本人がご家族に話されたことも教えて頂き、思いを受け止めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新規入居や、ターミナルの方、状態の変化があった方には、できるだけ面会をしていただけるようにしている。ご家族とはがきのやり取りをしたり、調理、包丁とぎ、園芸、犬の散歩、今までの仕事の経験などを継続していただけるようにしている。携帯電話での通話や写真や動画の送信等を積極的に行っている。地域のイベント等にも参加している。	現在面会に制限はしていない。入所前には面談と出来るだけ自宅を訪問し、利用者の人となり把握するように努めている。包丁とぎ、植木剪定、他者へのお世話など、利用者ができることを大切にしている。また、近所を散歩したり、平城京跡でのイベントに参加したり、馴染みの美容室に家族と出かけるなど、馴染みの場との関係継続ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の様々な活動を通じて、ご利用者間につながりを持っていただく。ご利用者同士がトラブルにならないよう配慮して間に入り、人間関係性を構築できるような支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方には、ホームでの日々の暮らしの写真をアルバムにしてお送りしている。その後のご様子を伺ったり、その後の暮らしの場所に行かせていただいている。ご相談に乗らせて頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴・生活習慣をご家族から聞き、その人を知るということに努めている。入居後も、それをもとにしながら、その人の思いや意向の理解を深めていくようにしている。毎日共に暮らすなかで、ご本人の希望や不安等、お気持ちを聞くようにしている。表情や言動を五感を通して掴み、少しでもその方の思いや意向に近づくように努めている。	入居時、面談だけでなく、自宅を訪問して住環境を把握している。また、生活歴・生活習慣を家族に書いてもらい、その人らしさの把握に努めている。入居後も利用者に寄り添って生活の中で思いの把握に努め、見聞きしたことを更新し続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・生活習慣シートに記入していただいたり、ご家族からお話を伺い、できる限り情報を得るようにしている。日々の会話や行動からも、把握し深めていくようにしている。ご本人やご家族から頂いた情報は生活歴に追記している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、状況把握をして、穏やかに自分らしく生活できるようにしている。起きる時間や寝る時間、食事の時間や場所などは自由に対応し、自分らしく生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、生活をアセスメントし、月2回のフロア会議や随時、看護師・相談職も含めたスタッフの意見を聞いているとともに、ご家族の意見もいただき、検討を重ねている。半年ごと、また、状態の変化があれば適時モニタリングシプランを見直している。	介護計画は入所後は2~3ヶ月で、その後は6ヶ月毎に更新している。月2回の会議で実施状況を話し合い、更新前にモニタリングを評価している。介護計画には、心身の状態、日常生活動作のニーズだけでなく、暮らし方の意向、得意なことについての対応などが細かく記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入は、重要なポイントをわかりやすく書き、重要な情報共有は、連絡ノートに書くようにしている。朝夕の申し送り時に情報の共有をし、見直しをしている。介護記録はスタッフの思いや検討・工夫も記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人にクリニックを有し、医療面に細やかに対応している。ご利用者の希望によりドライブに出かけたり、買い物等を楽しんでいただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平城宮跡が近くにあるという利点をいかし、散歩に出かけ、地域の方とふれあっている。季節ごとの平城宮跡のイベントにも参加している。スタッフの子どもの訪問を受け一緒に過ごし楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長がクリニック医師であり、月2回の訪問診療にて、ご利用者の健康管理を行っている。必要時には他医療機関に繋いでいる。看取りにも対応している。皮膚科・歯科は訪問診療が受けられる。法人のクリニックだけでなく近隣の医院への継続受診が自由に行える。外部受診は、ご家族にお願いをしているが、ご家族の都合が悪ければ付き添っている。	月2回、理事長(内科医)の往診がある。歯科、皮膚科の往診もある。これまでのかかりつけ医に外来受診したり、耳鼻科、婦人科に外来受診したりする方もいる。看護師が週5日勤務し、利用者の細やかな健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週5日勤務している。ご利用者の健康状態の報告と相談をし、協力しながら健康管理を行い、変化があれば、速やかに医師に報告相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を2か所の病院としている。入院先はなるべくご本人やご家族の希望をお聞きして繋いでいる。入院後は、病院と連絡を取り合い、病状の把握と、リハビリ状況等を見学し、退院後の生活がスムーズに行えるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての要望確認書をご家族に記入いただき、随時更新をしていただいている。運営推進会議で看取りについての事例を報告したり、普段よりご家族と重度化や終末期について話し合っている。医師とも相談し、状態悪化の時は入院治療し、良くなれば退院して、出来るだけホームの生活を続けて頂けるようにしている。看取り後チームで振り返りの話し合いを必ず行っている。	終末期に対する要望確認書を作成し、家族と話し合っている。「看取りは家族と共に」の考えのもと、看取り時には居室に家族用ベッドを入れ、泊まって頂いている。看取り後、振り返りミーティングを行い、研修でも取り上げている。「看取り急変時マニュアル」を見直した。この1年で8名の方を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルをもとに全体研修やミーティングや勉強会等で緊急時の対応や感染症の知識を高めている。緊急時は、医師・代表・管理者と連携が取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行っている。内訳は火災2回(昼間・夜間想定各1回ずつ)・地震1回訓練を実施している。ご利用者の状態に合わせた避難方法を確認している。	年2回の昼間、夜間想定避難訓練を実施すると共に、ならシェイクアウトの日には地震対応訓練を実施している。町内会に消防団があり、自治会長とも連携している。水は2ℓのペットボトルを60本、常温保存のレトルト食を3日分備蓄している。また、オムツ数日分、毛布、タオルは余分に保管している。BCPを作成し、研修も実施した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、尊厳を守り、その方の生き方を大切に、丁寧な言葉遣いを心掛け寄り添っている。その方のお気持ちに合った言葉、通じやすい言葉を意識している。	接遇研修で不適切なケアを確認し、職員同志で気の付いたことを話し合えるようになった。同性介助を希望する方には配慮している。トイレ介助は離れて見守ったり、ベット上での更衣は掛物を掛けたりしている。なお、書類はフロア事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの心身の状態を見つめ、その方に合った話しかけをし、お気持ちやご希望を引き出すことを心掛けている。言動は逃さず把握し、記録し職員が共有してケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴等をご利用者様お一人おひとりのペースに合わせている。希望を聞き、出来る範囲で希望に添うようにしている。ご利用者との会話を大切に、その中からもご本人らしさを掴むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、入浴前に着替えをともに選び、洋服を楽しみを持って更衣していただいている。散髪は、ご希望の方は近くの美容室を利用されている。ホームで、毛染めやカットを職員がさせていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	机を拭く方、お茶を入れる方、食材を盛り付ける方、食器を洗う方、食器を拭く方等、出来ることをしていただいている。献立を説明し、調理の音や匂いで食指を動かし、楽しみを持って頂いている。希望のメニューを献立に反映させている。	朝食は夜勤者が作り、昼、夕食は自然食にこだわった「あみカフェ」の厨房で作った惣菜と、ホームでご飯、みそ汁を作っている。日曜日にはホームで惣菜も手作りしたりする。おやつは希望を聞き、和菓子の提供が多い。誕生日やイベント時にはケーキや別注の季節饅頭を提供している。家族と外食に出かける方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ひとりに合わせた種類や形態にして安全に摂取できるようにし、生活の習慣を取り入れた時間に提供している。食べる量はDrに指示を受け適量を提供し、献立は、アレルギーや好みにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でみがける方へはお声掛けし、介助の必要な方へは、歯磨きや歯間ブラシ等でケアをしている。状態により歯科受診し、口腔内を清潔に保っている。歯科医より職員の指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ布パンツをはいていただく。その方の排泄パターンや、習慣に沿って声掛けし、トイレ誘導しトイレでの排泄を促している。出来ることはご自身でいただき、失禁時にはお気持ちを傷つけない様に配慮している。	利用者20名、昼夜オムツ3名で、布パンツ11名、他はリハビリパンツで対応し、トイレでの自然な排泄ができるよう支援している。排泄を促す前傾姿勢を取りやすいよう、両手を置ける机を置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を目指し、牛乳を飲んでいただく、にがりやバナナ、オリゴ糖等の摂取など、それぞれに工夫させていただいている。職員全員が便秘が及ぼす影響について理解し、入浴や運動、腹部マッサージを行っており、トイレに座ることを習慣にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間、入浴方法の希望をお聞きしている。好みの時間に入浴いただいたり、洗髪だけなど、その方のお気持ちや状態に沿うようにしている。汚染や失禁された際には適宜入浴して綺麗になっていたideている。	ほぼ毎日お湯を沸かし、原則週3回入浴できるよう支援している。また、時間帯は夜7時30分までは対応するよう努めている。利用者が重度化しても、湯船に浸かれるよう介助方法の研修も実施している。同性介助を希望する方にも対応するよう努めている。入浴剤やボディソープは植物由来のものを使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも、自由に居室に戻り休息したり、横になっていただき、いつでも自由に横になれるという安心をもっていただいている。昼夜逆転にならないよう、お声掛けや、日光浴等を行っている。夜間はアロマオイルを使用して気持ちよく眠れるような環境をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がいつ、どんな症状に対する薬を、何錠服薬なさっているか職員全員が認識している。毎服薬前に確認を行い確実に服薬していただいている。用法や用量は、職員間で確認をし、間違いのない安全な服薬を確保している。服薬後に異変がないか、ご様子の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや、掃除、新聞を取りに行く等生活の中で得意なことを発揮していただいている。体操や踊り、創作活動など嗜好や趣味を把握して、お一人おひとりが張り合いを感じて頂けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、天気の良い日には散歩に出かけている。季節を感じていただけるように花や樹木の鑑賞にも出掛けていただいている。犬の散歩に出かけたり、ドライブに行ったりもしている。	天気の良い日は利用者の希望にそって、日常的に散歩している。道を挟んで隣が平城京跡という恵まれた環境にあり、そこで行われているラジオ体操に参加することもある。買い物に出掛けたり、ドライブに出掛ける方もいる。外出やイベントは、日誌に記録されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとって金銭管理は難しく、紛失の危険性も大きい。原則は金銭の所持はしていないが、強い希望のある方には、ご家族と相談し、少額を自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っていらっしゃる方もいる。充電させて頂いたり操作を手伝うなどの支援をしている。自身の携帯電話がない方も、事務所の電話からかけて頂いたり、手紙を出されることの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには花のマークをつけて認識しやすいようにしている。西日がまぶしいため、リビングはロールカーテンにて日光の調整をおこなっている。換気をし、温度や湿度を調整して快適に過ごせるようにしている。季節に応じた飾り付けをご利用者と一緒に作り、すべての方に心地良いと感じていただけるように工夫をしている。	利用者が心地良くあちこちで寛げるようにソファや椅子を配置し、居室やトイレ、風呂にも安全に移動ができるように考えられている。採光、湿度、臭いなどのことも気を付け、加湿器や消臭装置が設置されている。また、フロアごとに特色を出した壁飾りを制作している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを数か所置き、お好きな場所でくつろいでいただいている。また、他のフロアとも行き来し、気の合うご利用者と過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、イス等家具や、なじみの写真や絵、使いなじんだ布団や衣類等も持ってきていただき、普段の自宅での生活と変わらないよう配慮している。	居室の表札は、好みの絵柄に大きく氏名を書き、引き戸に張り付けている。エアコン、ロスナイ、カーテン、作り付けタンスが設置され、ベッドは持ち込みやレンタルされている。テレビ、タンス、机などを持ち込んで居心地よい部屋作りをしている。壁いっぱいには孫、ひ孫の写真を貼っている部屋があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内に机の設置や居室内に長机を置かせていただいたり、安全におひとりでも行動していただけるように配慮している。		